

元住吉、最大の音楽祭。

第2回 元住吉ミュージックフェスティバル

2023 Motosumiyoshi Music Festival

日時 **2023年4月8日(土)**
午前11:00～午後8:00

場所 **川崎市国際交流センターホール**

ジャズ、クラシック、ロック、アコースティック etc.
たくさんのアーティストが集い
一日中、生の音楽に浸って見ませんか?!

主催 音楽好きな友の会
共催 Motton Club
後援 「音楽のまち・かわさき」推進協議会
(公財)川崎市国際交流協会
(公財)かわさき市民活動センター
(公財)川崎市生涯学習財団
かわさき市民放送(株) (かわさきエフエム)
(公財)現代人形劇センター
人形劇団ひとみ座

協力 モトスミ・フレンメン通り商店街振興組合
モトスミ・オズ通り商店街振興組合
井田中ノ町商栄会
井田第二共和会
木月一丁目会、二丁目会、三丁目会
木月四丁目共和会
武蔵新城サンモール商店会
福街不動産
(2022年11月15日現在)

お問い合わせ info@ontomo.jp



M MAGAZINE

2023 January

MAGAZINE
●Motosumiyoshi●Music●Meet●Memories

元住吉の気軽な音楽会



チャーリー半田:ジャズ・ヴォーカリスト。
世界を歌い歩いたエンターテイナー。アメリカ、イギリス、パリ、グアム、韓国、香港、マカオ、シンガポール、フィリピンと世界各国を歌い歩き、「レ・ミゼラブル」の主役オーディションでは無名ながら最後の2人まで選考に残るも、俳優の鹿賀丈史にその座を奪われる。その後、左団扇のボーカリストとして数々のミュージシャンと共演。レパートリーは100曲以上。現在は横浜・馬車道で「チャーリーズ・バー」のマスターも兼ねている。最寄駅は「桜木町」徒歩七分。

Photo: Yoshino Yasuda

連載40 そして音楽の旅は続く The Nearness Of You



明けましておめでとうございます。新しい年の始まりですね。皆様がたくさんのお幸せが訪れますように。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さてジャズボーカリストになって2005年は、あっという間に過ぎた年でした。2004年の秋に初セッションに行き、3回くらい参加した翌年の4月に初の単独ライブ。セッションホストの仕事もいただいたので常に曲を覚えなきゃ、覚えなきゃ、でてんでお舞い。そこに降ってわいたように、昔からの音楽業界の友人からレコーディングのお話もいただきました。シャープ(株)と早稲田大学が共同開発した1-BIT RECORDINGという技術で、高音質のレコーディングをしたいということでした。もちろん「やらせてください!」と張り切ってお返事をしました。

ジャズの修行を始めたばかりだし、7月にレコーディングで日にちもあまりないし、こんなにも軽々しく引き受けちゃっていいのかしらとも思いましたが、新技術とか高音質とか聞いたらワクワクしちゃいますよね。そこでまたピアノリスト岩谷泰行さんにあたふたと連絡をしてレコーディングを助けていただきました。選曲、アレンジ、演奏、何度もしゃべり。この頃は、岩谷さんが弾いているピアノトリオのセッションにも良く通いました。ピアノ1本や譜面を見るだけより、ベースやドラムがあった方がアレンジされたアナンスが分かりやすいからです。そして、どうにかなるかな〜の状態でのレコーディングは始まりました。気になっていた新技術は、CDというデジタルでありながらレコードのような繊細でダイナミクスを感じられる音質!うわ〜すごいという感じでした。何時間も録音だと20数本のチャンネルで録音するのですが、今回のSACD録音は8本のチャンネルで収録しました。じつは英語の発音や、音程の危ないところがあって、私はもう1回取直しをしようと思った箇所もありましたが、スタッフもメンバーも、みんな一緒に奏でてくれるJAZZの臨場感や空気感を大切にしようという事でそのままOK!こう

ジャズボーカリスト 星乃けい

official website
<https://www.hoshinokei.com>

で私の1枚目の1-BIT SACD「The Nearness Of You」は完成し、8月には1万枚程が世界のオーディオ業界に流通され、その後、ジャケット写真を新たに12月に一般販売がスタートしました。2005年、ジャズのボーカリストとして満足できることなんてほとんどなかったけれど、とにかく、ひたすら一生懸命に唄っていました。私のCDの棚に並ぶThe Nearness Of Youは「一生懸命に唄ってる?この時みたいに」って、いつも私に問いかけます。



2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「THE NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をLP、CDでリリース。オーディオファン、ジャズファンから高く評価支持される。

常連の参加者との共同製作です。撮影、編集はギター奏者の永瀬晋が担当。新規参加の前に、ぜひご覧ください。YouTube配信中。

音友レコード倶楽部PR動画!
「音友レコード倶楽部」をわかりやすく説明したPR動画を是非ご覧ください。

島倉 学ミュージックスクール

驚くほど歌い方が上達する
「島倉 学メソッド」

歌が人生を変える
音楽は決して貴方を裏切らない

島倉 学ミュージックスクール
プロ志望専門ヴォイス・トレーニング

30分無料体験レッスン実施中!

【レッスンスタジオ】元住吉駅西口 徒歩5分
島倉音楽スタジオ
〒211-0025 神奈川県川崎市中原区本町3-35-1 ART FLATS B1F(106号)

【お問い合わせ先】
島倉音楽事務所
代表 島倉 学 営業日:火曜~土曜 12:00~21:00
定休日:日曜・月曜

TEL 044-567-5940 Mail: info@ma-musicchool.com
HP: <http://www.ma-musicchool.com/>

音楽好きな友の会(音友会)

2023年。謹賀新年。

音楽好きな友の会(音友会)が音楽を通して地域活性化活動を始めて今年で9年目になります。「音友会」の活動もこの新型コロナウイルス拡大防止対策で中止や延期で開催には苦労してきました。「音友レコード倶楽部」も再開し、今年は3年ぶりに「第2回元住吉ミュージック・フェスティバル(MMF)」開催の目処が立ち準備がガンバっています。また「MMFの演奏のお祭り」と「音友レコード倶楽部」が同日の4月8日(土)に 国際交流センターのホールと

音楽好きな友の会代表 **塚田 親一** motton club代表 **牧野 ぐみ**

レセプションルームで開催されます。ライブ演奏とレコードコンサートを「音友会の1日」としてお楽しみ頂くと同時に皆様のご協力、ご支援のほどよろしくお願いたします。音友会・クラシックソサエティー 田島華乃、および音友レコード倶楽部スタッフ、モットンクラブの演奏メンバー、牧野ぐみ、牧野恵人、永瀬晋、他に記録の安田芳弘、広報の神山昇メンバーともに今年も様々な形で活動など開催して行きますのでよろしくお願い致します。

2023 謹賀新年 音友レコード倶楽部

昨年3月より「音友レコード倶楽部」を再開し、4月はtvk(テレビ神奈川)「猫のひたいほどワイド」、5月はイッツコム「地モトニュース」において活動状況をテレビ放送で告知し、順調に滑り出しました。今年もDJ等を通じ、「音友レコード倶楽部」の活動を頑張りますのでよろしくお願い致します。

藤田 順治

コロナ禍で休止していた「音友レコード倶楽部」も再開しました。ディスクジョッキー担当時は自らの企画でレコード、CDを紹介させていただき、一方で参加者の皆さんがお

スタッフ一同

持ちいただいた音源も鑑賞し、毎回、新しい音楽との出会いがあります。広い会場で大きいスピーカーを鳴らす休日の午後のひとは至福の時間です。皆さんも愛聴盤、秘蔵盤をお持ちいただき、是非参加してください!

大場 明弘

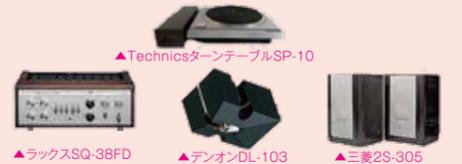
ワールドカップも無事終了しましたが、今年も皆様といろんな音楽との出会いをたのしみながら、次の2026年の北中米開催大会を待とうとおもいます。引き続きよろしくお願いたします。

木村 敏行

夢のホールでレコード・コンサートが開催!!

やっと実現できましたが残念な事にスタッフ皆さん団塊世代の諸事情で音友会音響機材の運搬などが出来なくなりました。本来はJBL-4321や三菱2S-305スピーカーシステムをステージ上に、奥に2本手前に2本の台形上に配置し、いかにもステージ上に演奏者が演奏しているかのような音響バランスで音場空間を作り聴きたかったのですが、またの機会になってしまい残念です。レコードの再生音は入口と出口で決まると言われていますが、音友会のシステムもTechnicsターンテーブル SP-10、カートリッジも、SHURE、DL-103などを持ち込み、LUX-SQ38FDの管球アンプ、またソニーのオーディオ技術とトランジスタ技術を全て投入したと言うSONY-1120などの往年の名器のアンプで駆動させて鑑賞したかったのですが残念です。ですが1月8日はホール会場のシステムですがどの様なサウンドで再生されるかが楽しみです。初めての体験

ですが、レコードファン(アナログサウンド)の皆さんも自慢のコレクションのLPなど持参で参加してみませんか。



▲TechnicsターンテーブルSP-10 ▲ラックスSQ-38FD ▲デンオンDL-103 ▲三菱2S-305

◎開催日時:1月8日(日)
開場:13時15分/開演:13時30分/閉会:16時30分
◎開催会場:国際交流センター・ホール
※「ソフトドリンク等の持ち込み可」◎会場は「バリアフリー」です。
◎参加費:1,500円 ※高校生以下¥500
※2月は26日(日)レセプションルームを予定しています。詳細はHPをご覧ください。

2023年1月8日(日)「軽音楽の集い」と「ジャズの集い」のプログラム

●「Jazz Date」(ジャズファンの集い)
通好みの輝銀ピアニスト、デューク・ジョーダン 白田一浩



非常に端正な奏法で知られ「通好みの輝銀ピアニスト」と評されたデューク・ジョーダン。素朴で美しく親しみと温かさを感じるピアノの調べは、ジョーダンの温厚な人柄と相まって聴く者の心を豊かにしてくれます。今回はジョーダンが後年に居を構えたデンマークのステイブルチェイス・レーベルと、ジョーダンのオリジナル曲を中心にセレクトしました。じっくりと、耳と心をジョーダンのピアノに傾けてみてください。

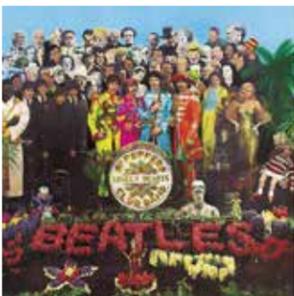
●「Light Music」(軽音楽ファンの集い)
「名プロデューサー、ハル・ウィルナーを偲ぶ」 木村敏行



2020年にコロナの合併症で亡くなったアメリカ人プロデューサー、ハル・ウィルナーですが、ジャンルを飛び越えた顔ぶれのミュージシャンを集めたトリビュートアルバムの制作で知られています。その初期の作品「アマールコルドニーノ・ロータ・メモリアル・アルバム」「セロニアス・モンクに捧ぐ」星空に迷い込んだ男/クルト・ワイルの世界「眠らないで/不朽のディズニー名作映画音楽」の4枚を中心に、独特の世界に迫ります。

連載28 団塊じいのジャケ買い遍歴

皮肉っぽい歌詞、フランク・ザッパが面白い 神山 昇



ビートルズ[Sgt. Pepper Lonely Hearts Club Band]のジャケット、アーティストはピーター・ブレック。▲Sgt. Pepper Lonely Hearts/The Beatles UK: Parlophone PCS-7027



フランク・ザッパ率いるマザーズ・オブ・インヴェンションが1968年に発表した3作目のアルバム。デザインはカル・シエンケル。▲Frank Zappa & The Mothers Of Invention US: Verve/V6-5045X

私は友人に恵まれていつとつくづく思う。マザーズ・オブ・インヴェンションというバンドやフランク・ザッパという一度聴いたら忘れられない、そんな名前を知り得たのも二人の友人からであった。それもほぼ同時に「これ面白いぞ」と。手にしたジャケットは発売から手に3年は経っていたと思う、それもファーストアルバムでなく3枚目だった。

「冗談じゃねえぞ!!」ジャケットを見るなりそう叫んだ。あまりにも私に影響を与えてくれたビートルズの「サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド」のマネじゃねえか! ところが楽曲を聴いているうちに、思わず笑い出してしまった。辞書を調べても歌詞はほとんど訳せなかったが、頭が良い友人が皮肉やパロディといった難しい訳を教えてください、それで納得したのだ。

「あれ、これどっかで聴いたことがある。確かビートルズの…」と言いかけたあたりで曲がいきなり変容する。まるでリスナーの思惑を裏切っているように思えるのだ。「やられた」これは私だけの思い込みかもしれないが…。さらに、ビートルズの「レボリューション9」を思わせるサウンドカラーもあって実に面白い。そんな前衛的な楽曲もあって私は病みつきになった。

あまり一般ウケはしなかったが、それでもフランク・ヴィンセント・ザッパは1988年にはグラミー賞の最優秀ロック・インストゥルメンタル賞を受賞している。イギリスで「ホット・ラッツ」がヒットチャートで上位を占めたこともある。そう、唯一のウォール・グループ「ウィリー・ザ・ピンブ(ほん引きウイリー)」の曲を訳詞を見ながら聴くと実に面白い。

ロシア、ウクライナに軍事侵攻、トランプ元大統領の再出馬。ザッパが生きていれば黙ってはいなかったろうな。ヘッドホンでなく大音響で聴いてみたい。親しい友人たちとコーラを片手に…そう思う今日この頃であった。

日本生まれの弦楽器、ヴィオラ 桂 宏美

桂 宏美(かつひろみ): 群馬県大泉町出身。シンガーソングライター・ヴィオラ奏者&ヴォイストレーナー <https://www.pckms.com/>

私はヤマハ音楽院(川崎市中原区)ボーカル科を卒業し、ボイストレーナーをしながらロックバンド活動、TVドラマや再演ビデオCMのエキストラなどの芸能活動、自身の楽曲創作活動や体力トレーニング等日々鍛錬しながら人生を模索して参りました。

そんな日々の中「ヴィオラを創ったのだけど弾ける人がいない、20代の人を育てたい」とヤマハ音楽振興会の担当の方よりお声がかかり、興味本位でヴィオラという未知の世界に飛び込んでしまいました(笑)。



横浜・馬車道「チャーリーズ・バー」

●電話予約(営業時間内)045-228-833
●メール予約charliesbar.jazz@gmail.com

今月の表紙に登場した、チャーリー半田さんのジャズ・バーは横浜の馬車道にあります。最寄りの駅は桜木町ですが、馬車道駅、関内駅からも…。1月のスケジュールは右記を参考に。



Table with 4 columns: Date, Day, Artist, and Venue. Shows the schedule for Charlie's Bar in January.

音友レコード倶楽部Report Jazz Date 2022年11月コンサートの報告

ベニー・グッドマンの黄金時代をあらためて鑑賞 大場アキヒロ

11月3日の文化の日はお天気にも恵まれ、暖かい祝日の午後となりました。今回のジャズの集い「JazzDate」はスイング時代の代表的ビッグバンドのひとつ、ベニー・グッドマンを取り上げました。自己のビッグバンドを結成した1935年から、レギュラーバンドを解散する1949年までの15年をアレンジ/バンドシンガー/コンボの3つの視点から筆者のDJで聴いていただきました。

ベニー・グッドマンはベニー・グッドマンによって見出されました。「ELMER'S TUNE / Benny Goodman and Peggy Lee」(写真②)より、バンドシンガーとして在団中にセクステットの演奏にベニー・グッドマンのヴォーカルをフィーチャーした「オン・ザ・サイド・オブ・ザ・ストリート」。可憐で初々しいベニーのヴォーカルを聴くことができました。1940年代後半に入るとモダンジャズの時代になり、グッドマンも時代にあわせて演奏のスタイルを模索します。1948年にはビッグバンドのビッグバンドを結成し、世間を驚かせました。この時代の録音より「BEBOP SPOKEN HERE」(写真③)から「アンダーカレント・ブルース」。このビッグバンドは成功せず、このバンドの解散をもってレギュラーのビッグバンドが終了しました。Dタイムでは上記も含め、全9曲を聴いていただきました。

後半の持ち寄りタイムでは、バラエティに富んだアルバムの紹介がありました。スイング時代からの名ベース・プレーヤー、ボブ・ハガートの1996年のリーダーアルバム「HAG LEAPS IN」(写真④)より「アイム・ビギニング・トゥ・シン・ザ・ライト」。ジョン・パンチ(p)、バッキー・ビザレリ(g)を加えた熟練のスイングが楽しめました。デューク・ピアソン(p)の1959年のアルバム「TENDER FEELIN'S」(写真⑤)より「オン・グリーン・ドルフィン・ストリート」。ピアノのピアソンは決して派手ではありませんが、バランスのとれた安心して聴ける好演奏。他にはニューオーリンズの女性ピアニスト、スイート・エマ・バレットのプリザベーション・ホール・ジャズバンドのライブアルバムより「ジャスト・ア・クロウザー・ウォーク・ウィズ・ミー」など、今回も良質且つ充実した時間を過ごしました。



▲①The Famous 1938 Carnegie Hall Jazz Concert/Benny Goodman



▲②Elmer's Tune/Peggy Lee and Benny Goodman



▲③Bebop Spoken Here/Benny Goodman



▲④Hag Leaps In/Bob Haggart



▲⑤Tender Feelin's/Duke Pearson

ジャズのスタンダード曲をボサノヴァで 藤田 順治

昨年、12月の音友レコード倶楽部は開催がなく、11月3日が昨年最後のレコードコンサートとなった。「軽音楽の集い」では「ボサノヴァのミュージック」と呼ばれていたナラ・レオンを取り上げた。彼女が幼少期に好きだった映画音楽の影響によりジャズのスタンダード曲を全曲ポルトガル語で歌った2枚のアルバム「Meus Sonhos Dourados (あこがれ)」(写真①)、「Onde E Quando(いつかどこかで)」(写真②)より「ムーンライト・セレナーデ」、「センチメンタル・ジャーニー」など有名な曲をピックアップして聴いてもらった。幼馴染であるギターリストのロベルト・メネスカルがプロデュース、アレンジ、ギター演奏がバックアップしており、ボサノヴァに見事にアレンジされた曲群は一聴の価値があると私は思っている。1985年にロベルト・メネスカルらと2度目の来日を果たしたが、その頃、制作

したのが本日紹介した2枚のボサノヴァによるジャズ・スタンダード曲集アルバムである。当日DJタイムのプログラムを入場時に配布しているが、その選曲にはない「ハウ・アバウト・ユー」のリクエストがあり、コンサート前の音出しチェックの時に鑑賞するとうらハニングもあった。持ち寄りタイムでは新譜アルバム2枚と貴重盤1枚が紹介された。1枚目は今や日本を代表するピアニストである上原ひろみがアンソニー・ジャクソン・ベース、サイモン・フィリップスのドラムと組んだ「MOVE/上原ひろみ ザ・トリオ・プロジェクト」(写真③)からタイトル曲「ムーブ」を鑑賞した。この曲は朝の目覚めをテーマとしたオリジナル曲である。プログレッシブ・ロック的な叩きこむリズムが印象的であった。2曲目は1966年にリリースされたビートルズ7枚目のアルバム「Revolver/

The Beatles」スペシャル・エディション盤(写真④)より「タックスマン」、「トゥモロー・ネバー・ノウズ」を聴いてもらった。新たにミキシングが施されており、また、本日は聴けなかったがマスター・テープからのモノ・ミックスも別に同梱されている。最後は来月のクリスマス時期の先取りで「Watching the Snow/Michael Franks」(写真⑤)より「クリスマス・イン・キョウト」を聴いた。マイケル・フランクスといえば主要なAORシンガーの一人で昔、「The Art of Tea」、「Sleeping Gypsy」などでボサノヴァ的な曲を演奏していた。彼は親日家だそうで今回聴いてもらった曲は来日時の京都の思い出を元にジャズ的な味付けがされており、詞の中には「キモノ」、「カッパマキ」、「ワサビ」などの日本語がちりばめられていた。



▲①Meus Sonhos Dourados/Nara Leao



▲②Onde E Quando/Nara Leao



▲③Move /HIROMI THE TRIO PROJECT



▲④Revolver/The Beatles (Special Edition)



▲⑤Watching the Snow/Michael Franks

連載76 「くじら座」日記

あやまち

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。人は、結局「肩書き」によって人の本質を見落とし、そして見誤るのである。先日、街中でバンド演奏する女子高生の集団を見かけた。少し足を止めて聴いてみると、MCの一発目が「私たちは、バンドコンテストで優秀賞を取りました」という内容であったため、私は、彼女たちのライブをもう少し見てみることにした。優秀賞を取った彼女たちの音楽が気に入った、ということではない。観客の様子を見たくなったのだ。結果は予想どおりだった。最初の一言によって、観客の多くは「何やら凄い新人な気がする」といった催眠術にかけられたようにステージに食い入り、それを見た通行人もまた、つられるようにして足を止めていくのである。かく言う私も結局最後まで見たのだが、演奏後、彼女たちは共演者の演奏には目もくれず、スマホをいじりながら会場を後にした。自分さえ良ければ良い、そういったマインドの若手ミュージシャンを見かける機会が多くなったと感じるのは、私が若手ではなくてきた証だろう。そういえば18歳の頃、私も同じようなことで怒られたことがあったと思出す。そして今、ふと感謝の念を抱くのである。音楽だから、ではない。社会を上手く渡るには「肩書き」が必要だ。そして、その「肩書き」を得るためには、まさに人間関係が大切なのだ。どれだけオンラインの社会になろうと、社会が人で構成されている限り、立場を決めるのもまた人である。ステージが付くと、冬の風が目に見えた空。若い女性だろうが、優秀賞だろうが、そんなことはどうでもいい。自分の中にあった思い出を呼び起こしてくれた彼女たちのライブに、私は少し感謝したくなった。こうして私も、結局「肩書き」によって人の本質を見落とし、そして見誤るのである。

牧野 憲人



連載56 Course: Addicted to Guitar 手っ取り早くジャズっぽいフレーズ その2 オルタードスケール 永瀬 晋

新年あけましておめでとうございます! 今年も皆様のギターライフに少しでも(笑)役立つフレーズをソウリーヴ・ミュージック・スクール永瀬がお送りいたします。前回は久々のJazzネタでしたが今月もマニアックに続きをやっていきますよ! 今回もII-V-Iを使用していきます。※おさらい→「II(少し不安定)-V(かなり不安定)-I(安定)」というコード進行「ジャズっぽさを出すためにVの所を不安定さをうまく表現するのがコツになってきます その1では「ディミニッシュアルペジオ」を使いましたが、今回は「オルタードスケール」を使用していきます 構成音はRoot、b9、#9、M3、#11(b5)、b13、7、とな

ており通常のスケールとは違い、オクターブ内に音が7つあります。これは音階というよりは、通常のメジャースケールに入っていない音を全部並べた、不安定さを出すための独自の音の並びと解釈するのが良いと思います。では譜例ですね 譜例ではD7の小節でオルタードスケールの音階をただ上昇しているだけなのですが、オルタードスケールはそもそも構成音にかなり癖が強くなることもあり、並べて弾くだけでも

強烈なインパクトを得ることが出来ます フレーズの作戦としてはやはりD7の小節で不安定さを強調してGmで安定させるという前回のディミニッシュアルペジオと全く同じ作戦ですね。こんな感じで一つ作戦を増やすとアドリブも非常にやり易くなりますので、是非お試しください! またこんな感じで別のフレーズも紹介していこうと思いますので、次回もよろしくお祈りいたします!

Musical notation for the altered scale exercise, showing a staff with notes and a bass line with chord symbols (Am7b9, D7, Gm).

連載-Take 19 第2回元住吉ミュージック・フェスティバル開催!! 塚田 親一

私たち「音楽好きな友の会(音友会)」は、「元住吉の気軽な音楽会」と銘打って地域活性化をめざし、地元や近郊のみならずレコードコンサートや街角投げ銭ライブなどで音楽を楽しんでいます。そしてより一層地域を盛り上げようと〜クラシックからジャズ、Jポップなど幅広いジャンルの音楽祭〜、そして「元住吉最大の音楽祭」の「元住吉

ミュージック・フェスティバル(MMF)」を主催しています。2019年春、第一回をなんとか開催でき、さあ第二回というところで、コロナ感染拡大となり中止、延期していました。それがウイズコロナ・アフターコロナの時代となって2023年4月8日(土)に4年ぶりに開催する準備が整いました。そして2023年1月末日に出演者の決定が発

表されます。「進行ボランティア・スタッフ」は引き続き募集しています。2023年の卯年は私たちと大いに音楽祭りの1日を祇園町のホールで「MMF」に来場および、演奏家の皆さんと一緒に「音楽の祭典」をジャンプで盛り上げていきますか!!

Souleave Music School advertisement with logo and contact information: 元住吉駅徒歩3分、武蔵小杉駅徒歩13分、チケット制 音楽教室 Tel 044-750-8992

MOTTON CLUB advertisement with logo and QR code: 地域の、全国のミュージシャン、そして音楽活動に関わるあらゆる人をネットワークしたい。